

# これまでの研修・これからの研修

学習院大学 文学部 教授  
文部科学省中央教育審議会教員養成部会長

秋田喜代美



独立行政法人教職員支援機構

# 目次

---

- 1 これまでの研修
- 2 これからの研修

# 1 これまでの研修

学びの主語が「教師」になるのがむずかしい、誰もが自分事とは感じられない研修

一方向の伝達：知識理解が表面的になりがちである。

教え—教えられの関係や役割が固定

一斉での話し合い：発言権が特定の人に偏る。声の大きい参加者の語りが中心になりやすい。

若手や慣れない人が語りにくい。本音が語りにくい  
知識や授業方法の習得重視：仮説検証型で特定の文脈が捨象されがち。

回数を踏んでも積みあがらない：その場で得た知識が断片的になり継続的累積的になっていかない。共有が難しい。

やること主義：こなすことへの満足感

## 2 これからの研修

「新たな教師の学びの姿」の実現に向けた仕組みの構築」（令和4年の答申の中で）

何を求める研修かの目的や目標の明確化 5つの柱

- ①教職に必要な素養
- ②学習指導
- ③生徒指導
- ④特別な配慮や支援を必要とする子供への対応
- ⑤ICT や情報・教育データの利活用

どのような研修か？

校内研修の活性化、  
研修の性質に応じて、研修後の成果確認方法を明確化

# 多様な学び方による 教師の個別最適な学びと協働的な学び

教職員支援機構、教育委員会、学校法人、大学、民間等が提供する研修コンテンツを一元的に収集・整理・提供するプラットフォームを国が構築  
研修実施者や教師自らの研修デザインを支援  
研修履歴記録システムとの連動  
教師が合理的かつ効果的に研修を受講できるようにする  
多様な主体がオンライン研修コンテンツを開発する取組

|       | 同期           | 非同期         |
|-------|--------------|-------------|
| 対面    | 直接の対話 一体感の醸成 | 事前にコンテンツの利用 |
| オンライン | オンライン空間上での対話 | 反転学習記録録画の活用 |

# 校内における授業研究の場合

## これまでの典型的な在り方

- 学びの中心は協議会の話し合いの場
- 学び手は研究授業の授業者
- 周りの人はその人への助言者
- 指導方法を中心にした議論
- 一般化を目指す
- 断片的で終わる

## これからの在り方

- 学びの中心は、授業を観ることであり、その自分の見方をもとにしながら、同僚の見方や語りを聴くことで協働構築する
- すべての参加教員が学び手としての役割を担う
- ある文脈の中で生じる学びの中のさまざまなつながりに気づく
- 自分の実践とつなぎ考える  
課題の探究

# 授業や学校を関係性(つながり)、 システムの中で捉える

|     | 子ども、教師、<br>組織の体系<br>一斉、グルー<br>プ、<br>ペア、個人 | 媒介する話し<br>言葉<br>フォーマルな<br>言葉<br>宛先 | 媒介する身体<br>やつぶやき、<br>まなざし(視<br>線) | 板書・ノート<br>書き言葉や記<br>された図<br>インスクリプ<br>ション |
|-----|-------------------------------------------|------------------------------------|----------------------------------|-------------------------------------------|
| 教師  |                                           |                                    |                                  |                                           |
| 子ども |                                           |                                    |                                  |                                           |
| 学習材 |                                           |                                    |                                  |                                           |
| 道具  |                                           |                                    |                                  |                                           |

身体的なつながり、時間的展開、発話一応答の連鎖、空間的つながり  
座席やまなざしの向き、距離の相違      空間的なもの

# かおりっこミニマラソンのコースを作ろう

2つのコースは、  
どちらも  
同じ長さ？

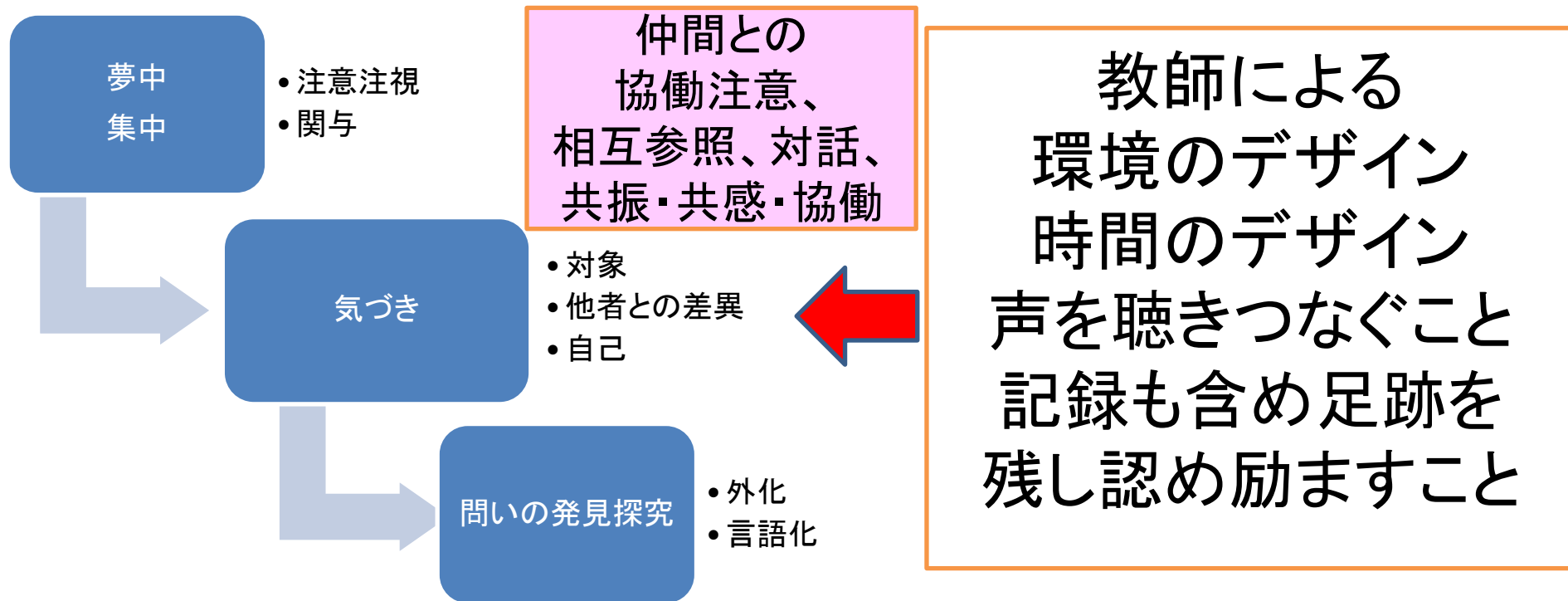
計算だけ  
だと実感  
わかない  
んじゃない？





# 探究の出発点 注視による関与

## 人、物、ことの対話とつながりを生む時間が関与



まとめにかえて

教師の個別最適な学び、協働的な学びの時間を働き方を工夫しながら、実施していくことで、質の高い専門家集団の形成をおこなっていくことが重要

多様性、卓越性、自律性を生かした学校の専門家集団の形成